

病虫害発生予察 6 月 月 報

6月の気象表(長野地方気象台発表)

官 署		平均気温 °C			降水量 mm			日照時間 h		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
長 野	本年	16.8	18.0	21.6	16.0	1.0	39.5	68.3	95.7	51.2
	平年	19.0	20.2	21.1	17.0	32.9	59.3	67.4	56.7	41.4
松 本	本年	17.3	18.7	21.4	14.5	0.0	44.5	85.9	102.1	45.8
	平年	18.7	19.9	21.0	19.3	42.4	64.0	65.6	55.8	42.3
諏 訪	本年	16.4	18.0	20.7	4.0	0.0	43.0	79.3	100.1	43.5
	平年	17.9	19.0	20.2	23.1	53.9	87.2	65.2	54.4	40.2
軽井沢	本年	13.3	13.9	17.7	40.5	10.5	58.5	77.2	84.4	46.1
	平年	14.4	15.7	16.8	26.4	55.3	73.9	56.2	45.8	32.1
飯 田	本年	17.8	20.0	21.5	24.0	-	91.0	83.8	104.2	33.0
	平年	19.1	20.2	21.5	36.3	63.2	103.7	60.8	51.0	39.6

関東甲信地方は6月7日ごろ梅雨入り(速報値)したが、梅雨前線は本州の南海上に停滞することが多く、上旬から中旬は平年に比べて曇りや雨の日が少なくなった。このため、月降水量はかなり少なく、月間日照時間はかなり多くなった。下旬は梅雨前線が本州の南岸に北上して曇りや雨の日が多くなった。気温は、上旬から中旬にかけて北からの寒気の影響を受けたため、低くなった。

1 麦

(1) 生育概況

第1表 麦の生育状況(須坂市:農業試験場作物部)

品 種 名	区 分	出穂期	成熟期		
			稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/㎡)
ファイバースノウ	平年	5/ 5	94	5.1	519
	前年	4/26	98	5.1	758
	本年	5/ 2	93	5.0	495
シラネコムギ	平年	5/11	85	8.4	518
	前年	5/ 2	92	9.2	535
	本年	5/ 8	86	8.4	521

(2) 病虫害の発生状況

1) 麦類赤かび病

大麦、小麦とも平年に比べて少ない発生であった。

2) さび病

県南部や県北部地域で発生が目立つほ場もみられたが、全般に平年に比べ発生地点率も低く、やや少ない発生であった。

3) うどんこ病

平年に比べ、発生時期は早く、平均病斑面積歩合は低いが発生地点率は高く、県中南部地域での発生が目立った。

4) 小麦の土壌伝染性ウイルス病(コムギ縞萎縮病、コムギ萎縮病)

本年の発生面積は、過去8年間と比べて少ない。

2 水 稲

(1) 生育概況

第2表 イネの生育状況(須坂市:農業試験場作物部)

品 種 名	区 分	移植後20日			移植後30日			移植後40日		
		主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/㎡	主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/㎡	主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/㎡
あき たこ まち	平年	6.6	27	201	8.6	35	448	10.1	54	624
	前年	6.9	29	202	9.1	35	475	10.2	48	602
	本年	6.8	28	199	8.2	31	325	9.6	44	532
コシ ヒカ リ	平年	6.7	30	232	8.7	39	528	10.1	56	723
	前年	6.9	31	240	8.6	39	569	10.0	52	686
	本年	6.9	30	241	8.2	32	400	9.6	47	621

*移植期:平成29年5月19日

*平年:平成22~28年のうち収量の最多、最少を除く7中5年の平均値

第3表 イネの生育状況(原村:農業試験場原村試験地)

品 種 名	区 分	移植後20日			移植後30日			移植後40日		
		主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/株	主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/株	主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/株
ゆめ しな の	平年	6.0	29	111	7.4	37	263	9.0	54	540
	前年	6.0	29	82	7.8	36	239	9.1	53	513
	本年	5.9	30	68	7.2	33	160	9.0	47	368

*移植期:平成29年5月25日

(2) 病虫害の発生状況

1) いもち病

葉いもち感染予測モデル「BLASTAM」によると、6月28日から感染好適条件が初出現し、6月30日、7月3日には感染好適条件が広域で出現したが、現時点では発生は確認されていない。

2) ニカメイチュウ

小布施町のフェロモントラップによる誘殺は、6月には確認されなかった。

近年、ニカメイチュウの発生量は全般に少ない傾向で、小布施町のフェロモントラップの誘殺数は少なく推移している。

なお、上田市の予察灯調査では、平年に比べ誘殺数が多い傾向で推移した。

第4表 ニカメイチュウ成虫のフェロモントラップ誘殺消長（小布施町）

月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
平成1年～ 28年の平均	82.8	128.4	161.5	137.5	66.0	18.4
平 年	0.5	0.9	0.4	0.0	0.1	0.0
本 年	0	0	0	0	0	0

* 平年は平成19年～平成28年（過去10年）の平均

第5表 ニカメイチュウ成虫の予察灯による誘殺消長（上田市）

月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
平 年	2.1	1.4	2.6	1.6	0.8	0.4
本 年	0	0	5	12	4	12

* 平年は平成19年～平成28年（過去10年）の平均

3) ツマグロヨコバイ

第1世代成虫の発生は、平年並みであった。

4) ヒメトビウンカ

第2世代成虫の発生は、平年並みからやや少なかった。

5) イネミズゾウムシ

アメダスの気温データによる越冬後成虫の出現時期の予測では、発生時期は平年並みであった。6月上旬の越冬成虫の発生は南信地方で平年に比べて多い傾向であったが、被害程度は全般に平年に比べてやや少なかった。

6) イネドロオイムシ

全般に発生時期は平年並みであったが、発生量は平年に比べ少なく、幼虫による被害は平年と比べて少なかった。

7) セジロウンカ

予察灯による誘殺は、須坂市で6月30日に1頭誘殺されたのみであった。

8) トビイロウンカ

予察灯による誘殺は確認されなかった。

9) カメムシ類

予察灯によるアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺状況（6月から7月1半旬）は、6月5～6半旬の誘殺数が平年に比べて多い。また、予察灯の調査地点の多くが同様の傾向にある。

3 りんご

(1) 生育概況

第1表 りんごの果実肥大状況（須坂市：果樹試験場）（単位・mm）

調査 日	つがる								ふじ							
	縦 径				横 径				縦 径				横 径			
	本年	比	平年	前年	本年	比	平年	前年	本年	比	平年	前年	本年	比	平年	前年
6/1	27.8	99	27.9	32.3	29.0	102	28.3	34.3	27.1	100	27.2	31.8	27.0	104	26.1	34.6
6/15	38.3	99	38.7	42.4	41.3	100	41.5	47.1	35.1	97	36.1	39.7	37.5	98	38.3	46.3
7/1	44.3	98	49.8	54.2	54.7	96	56.7	62.8	42.0	94	44.6	49.4	47.5	94	50.7	59.3

平年は2002～2015年の平均値

(2) 病害虫の発生状況

1) うどんこ病

東北信地域で「やや多」の発生であった。新梢にも罹病葉がみられた地域もあった。

2) 斑点落葉病

全般に「平年並」の発生であった。

3) 黒 星 病

6月中旬頃から葉の病斑が確認され、一部園地では果実病斑もみられたが、全般には「平年並」の発生であった。

4) 赤 星 病

全般に「平年並」の発生であった。

5) 果実腐敗性病害

巡回調査までの発生は認められず、全般に「平年並」の発生であった。

6) 腐 ら ん 病

巡回調査では、枝腐らん、胴腐らんの発生が目立ち、全般には「やや多」の発生であった。

7) ハ ダ ニ 類

巡回調査は場ではナミハダニ、リンゴハダニの寄生が散見された。各調査ほ場における発生程度は「平年並」であった。

8) シンクイムシ類

果樹試験場内のモモシンクイガ越冬世代成虫のフェロモントラップへの

誘殺状況は第2表のとおりで、平年より多くなった。

第2表 モモンクイガのフェロモントラップ誘殺消長（須坂市：果樹試験場）

月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
本年	9	22	23	48	7	3
平年	2.4	5.5	5.3	7.8	6.9	4.8

平年は過去10年平均値

9) リンゴコカクモンハマキ

果樹試験場内の越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺状況は第3表のとおりであった。

第3表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺消長（須坂市：果樹試験場）

月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
本年	0	0	0	0	0	0
平年	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

平年は過去10年平均値

10) キンモンホソガ

第1世代成虫の発生時期及び誘殺数は「平年並」であった。

第4表 キンモンホソガのフェロモントラップ誘殺消長（須坂市：果樹試験場）

月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
本年	7	20	14	7	11	2
平年	17.2	35.1	28.0	16.1	33.8	29.4

平年は2007～2016年の平均値

11) ギンモンハモグリガ

発生量は全般に「平年並～やや少」であった。

12) アブラムシ類

発生量は全般に「やや多」であり、多くのほ場で寄生が認められた。

4 なし

(1) 生育概況

第1表 なしの果実肥大状況（高森町：南信農業試験場）（単位：mm）

品 種	区分	5月15日		6月1日		6月15日		7月1日	
		横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径
二十世紀	平年	15.6	17.1	25.7	25.5	32.2	30.7	38.3	35.5
	前年	20.2	22.6	28.9	29.5	33.9	33.2	41.5	39.2
	本年	11.7	12.4	24.4	22.6	30.8	27.6	37.6	32.7
幸 水	平年	14.5	14.0	25.1	22.1	32.5	27.8	40.6	33.8
	前年	19.9	18.5	31.9	28.1	39.6	34.1	49.7	41.7
	本年	10.4	10.9	23.1	19.5	31.1	31.4	39.2	31.7
豊 水	平年	17.3	18.2	26.8	25.8	33.3	31.3	40.3	37.1
	前年	21.8	21.9	32.4	30.5	39.1	36.2	47.9	43.6
	本年	14.2	14.8	24.8	23.2	31.4	28.5	38.3	34.5

平年は1990～2010年の平均値（幸水は長果枝と短果枝の平均）

(2) 病害虫の発生状況

1) 黒斑病

県予察ほの発病は平年よりも少ない。

第2表 アルタナリア属菌の分生孢子捕捉数（高森町：南信農業試験場）

半旬	5月						6月					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
平年	2.1	3.7	5.4	5.6	6.0	11.0	13.0	16.5	32.9	25.8	27.2	15.3
前年	0	1	1	0	1	17	15	15	27	36	1	27
本年	0	1	6	7	7	4	2	35	6	10	27	14

18mm×18mm当たりの孢子数（個） 平年は過去10年の平均値

第3表 果実の発病（南信農業試験場「二十世紀」殺菌剤無散布）

	5月			6月			7月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	0.0	0.1	0.2	1.3	2.6	12.5	42.1
前年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.0	21.0
本年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0

平年は過去10年平均値

第4表 新梢葉の発病（南信農業試験場「二十世紀」殺菌剤無散布樹）

	5月			6月			7月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	0.1	0.2	1.2	5.2	8.3	13.3	20.6
前年	0.0	0.0	0.7	5.8	5.6	8.2	9.5
本年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	9.7	9.0

平年は過去10年平均値

2) 黒星病

巡回調査ほでは発生が認められなかった。県予察ほでは5月中旬に果実発病が認められ、以降、発病は増加し、7月上旬ではほぼ平年並みとなった。

第5表 果実の発病（高森町：南信農業試験場）

	5月			6月			7月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	9.6	26.9	36.1	39.1	42.5	53.4	66.5
前年	1.1	48.3	59.6	62.7	79.3	78.5	90.8
本年	0.0	6.5	12.0	24.5	47.0	56.5	69.0

「幸水」殺菌剤無散布樹で調査 平年は過去10年平均値

3) 赤星病

巡回調査ほ1園地で発病が認められた。

4) うどんこ病

巡回調査ほでの発病は認められなかった。

5) 輪紋病

巡回調査ほでの発病は認められなかった。

6) 枝幹性病害（胴枯病・枝枯病）

巡回調査ほでの発病は認められなかった。

7) リンゴコカクモンハマキ

巡回調査ほで寄生は認められなかった。

第6表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺消長（高森町：南信農業試験場）

月・半旬	6・1	2	3	4	5	6	7・1	2
本年	3	1.5	1	0.5	0.5	0	0	0
平年	1.9	1.3	0.7	0.2	0	0.1	0	0
昨年	0.5	0.5	0	0	0	0	0	0

8) ナシヒメシンクイ

巡回調査ほで寄生は認められなかった。

第7表 ナシヒメシンクイのフェロモントラップ誘殺消長（高森町：南信農業試験場）

月・半旬	6・1	2	3	4	5	6	7・1	2
本年	0	0	0	0	0	1.5	1	1.5
平年	0.1	0.4	0.3	0.9	1.5	1.1	1.6	0.5
昨年	0.5	0.5	0.5	1.5	0	0.5	0	1

9) モモシンクイガ

巡回調査ほで寄生は認められなかった。

第8表 モモシンクイガのフェロモントラップ誘殺消長（高森町：南信農業試験場）

月・半旬	6・1	2	3	4	5	6	7・1	2
本年	0	0	0	0	0	0	0	0
平年	0	0	0	0	0	0.1	0	0.3
昨年	0	0	0	0	0	0	0	0

10) ハダニ類

リンゴハダニの寄生がやや多い園地があるが、ナミハダニの寄生は全般に平年並からやや少なかった。

11) アブラムシ類

巡回調査ほの一部で発生が認められている。

12) カメムシ類

南信農業試験場の集合フェロモントラップでの7月第1半旬の誘殺数は平年よりも少なかった。

第9表 カメムシ類の誘殺状況（高森町：南信農業試験場）

	6・1	2	3	4	5	6	7・1	2
本年	0	0	0	0	0	0	0	0
クサギ 昨年	0	0.1	0	0.1	0	0.2	0.2	0.3
平年	0	0	0	0	0	0	0	0
本年	0	0	0	0	0	0	7	1
チャバネ 昨年	1.3	1.5	0.8	3.3	1.6	2.4	12.1	9.1
平年	1	3	0	1	1	0	21	5

13) クワコナカイガラムシ

第一世代卵の孵化時期（完了期）の予測は標高560m地帯で7月中旬である。

第10表 发育有効積算温度によるクワコナカイガラムシ第1世代卵のふ化完了予測

時 期	本年	平年	昨年	H27	H26	H25
第1世代ふ化完了予測日	7/20	7/22	7/15	7/14	7/20	7/19

平年値：過去10年間の平均気温より算出（高森町：南信農業試験場・標高560m）

起算日：越冬卵ふ化完了日 发育零点：10.5℃ 有効積算温度：640日度

5 もも

(1) 生育概況

第1表 ももの生育状況（須坂市：果樹試験場）

品 種	月 日	縦径 (mm)			横径 (mm)			側径 (mm)			指 数		
		本年	昨年	平年	本年	昨年	平年	本年	昨年	平年	本年	昨年	平年
白 鳳	6/1	31.1	45.7	30.7	27.0	40.9	26.1	23.0	34.9	22.0	7.8	17.4	7.7
	6/8	39.2	49.2	38.2	35.9	45.8	34.5	31.6	40.2	29.7	13.2	21.2	12.5
	6/15	43.7	51.7	43.1	41.4	49.4	40.5	36.7	44.5	35.7	17.1	24.3	16.5
	6/22	46.1	54.6	46.1	44.4	52.5	44.6	40.0	48.5	40.2	19.5	27.7	19.6
	6/29	48.3	59.3	48.5	47.4	57.0	47.7	43.5	54.6	43.7	22.0	33.1	22.3
	7/6	52.4	66.2	51.4	52.3	64.9	51.0	49.9	64.0	47.9	26.8	42.8	25.5
	7/13	57.3	71.5	55.2	57.6	70.3	55.3	56.5	70.8	53.0	32.7	50.5	30.0
川 中 島 白 桃	6/1	34.5	41.6	31.2	30.0	38.1	26.7	25.4	32.7	22.4	9.6	14.7	8.0
	6/8	41.5	44.8	38.5	38.5	42.9	35.3	33.5	38.0	30.2	15.0	18.1	12.8
	6/15	46.5	46.8	43.2	44.3	46.1	41.0	38.3	42.2	36.4	19.2	20.7	16.9
	6/22	49.0	48.0	45.9	48.1	48.0	44.9	43.0	43.9	40.3	22.4	22.1	19.6
	6/29	51.0	51.1	47.7	50.9	51.3	47.4	46.4	48.0	43.4	24.8	25.4	21.7
	7/6	52.4	53.4	49.4	53.7	54.9	49.7	49.6	52.5	46.1	27.1	28.7	23.7
	7/13	55.1	56.5	51.6	56.6	57.6	52.4	53.5	56.4	49.4	30.4	32.2	26.4

平年値：白鳳(1981年～2016年の平均) 川中島白桃(1985年～2016年の平均)

指数＝縦径×（横径＋側径）／2／100

(2) 病害虫の発生状況

1) せん孔細菌病

巡回調査ほでは葉の発生は見られたが、果実への発生がみられなかった。
「平年並」の発生量であった。

2) 縮 葉 病

巡回調査ほで発生が認められた。「平年並」の発生であると推測された。

3) 黒 星 病

巡回調査ほでの発生は認められず、「平年並」の発生であると推測された。

4) 灰 星 病

巡回調査ほでの発生は認められず、「平年並」の発生であると推測された。

5) ハ ダ ニ 類

巡回調査ほでの発生は認められず、「平年並」の発生であった。

6) モモハモグリガ

巡回調査ほでの発生は認められなかった。フェロモントラップの誘殺数も少なく、発生程度は「やや少」であった。

第2表 モモハモグリガのフェロモントラップ誘殺消長（須坂市：果樹試験場）

月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
本 年	12	16	4	4	16	9
平 年	298.5	716.3	470.7	279.6	92.3	91.0

平年値は過去10年の平均

7) ハマキムシ類

全般に、ほぼ「平年並」の発生と推測された。

8) シンクイムシ類

全般に、ほぼ「平年並」の発生と推測された。

6 ぶどう

(1) 生育概況

第1表 ぶどうの果実肥大状況（須坂市：果樹試験場）

品 種	月 日	縦径 (mm)				横径 (mm)			
		本年	昨年	平年	平年比	本年	昨年	平年	平年比
巨峰	7/1	15.2	23.4	16.3	93.1	13.2	20.0	13.9	94.8
	7/8	20.8	25.7	21.1	98.4	18.1	22.7	18.4	98.1

平年値は2006年～2016年の平均

(2) 病害虫の発生状況

1) 灰色かび病

巡回調査ほでの発生は認められず、「平年並」の発生であった。

2) ベ と 病

巡回調査ほでの発生は認められず、「平年並」の発生であった。

3) ブドウトラカミキリ

発生量はほぼ「平年並」と推測された。

4) ブドウスカシバ

発生量はほぼ「平年並」と推測された。

5) クビアカスカシバ

発生量は、全般にほぼ「平年並～やや多」であった。

6) チャノキイロアザミウマ

発生量は「やや少～平年並」であった。

7 野菜・花き

(1) 生育概況

本年は、平年より3日早く、昨年より2日遅い6月7日に梅雨入りした。

気温は上旬から中旬にかけて平年に比べ、全般に低めとなったが、下旬は平年並であった。月平均は長野、松本で高く他は平年並であった。

降水量は上旬及び下旬では一部地域で少なかったが、全般に平年並となった。中旬では平年に比べ全般にかなり少なかった。諏訪では6月を通して降水量は平年に比べ少な目であった。

野菜類の生育は全般に平年並であった。

(2) 病害虫の発生状況

1) きゅうりの病害

巡回調査では促成栽培ほ場でべと病（北信地域）、うどんこ病（中信及び北信地域）、灰色かび病（南信及び中信地域）がみられた。露地栽培ほ場では病害の発生はみられなかった。

2) トマトの病害

巡回調査では促成栽培ほ場で灰色かび病（中信地域）が目立つところがあった。ジュース用トマトほ場でウイルス病（南信地域）がみられた。

3) レタスの病害虫

病害では、巡回調査で腐敗病（東信及び中信地域）、灰色かび病（中信地域）、すそ枯病（中信地域）がみられた。その他、東信地域ですそ枯病の発生が地区防除員により報告されている。

虫害では、チョウ目害虫の食害（中信地域）がみられたが、全般に少なかった。

4) アブラナ科野菜の病害虫

病害では、巡回調査でキャベツでべと病が（南信及び中信地域）みられ、ブロッコリーでべと病及び黒腐病（いずれも南信地域）がみられた。その他、一部地域でハクサイピシウム腐敗病が地区防除員により報告されている。

虫害では、ウワバ類（中信地域のキャベツ及び南信地域のブロッコリー）、チョウ目害虫（東信及び中信地域のはくさい、東信、南信及び中信地域のキャベツ、東信及び南信地域のブロッコリー）がみられた。その他、一部地域のはくさい、キャベツでウワバ類の発生が地区防除員により報告されている。

アザミウマ類、アブラムシ類及びコナガについては後述する。

5) たまねぎの病害虫

巡回調査でべと病が北信地域でみられた。

アザミウマ類については後述する。

6) アスパラガスの病害虫

巡回調査では、立枯病及びチョウ目害虫（いずれも南信地域）が雨よけ栽培でみられた。アザミウマ類、アブラムシ類については後述する。

7) コナガ（アブラナ科野菜）

巡回調査では、キャベツ（各地）、ブロッコリー（東信及び南信地域）で食害がみられた。

フェロモントラップへの誘殺数は、塩尻市宗賀（野菜花き試験場）で第5半旬に、小諸市山浦（野菜花き試験場 佐久支場）では第4半旬に急増した。

第1表 フェロモントラップによるコナガ成虫誘殺消長

調査場所	月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
塩尻市宗賀（野菜花き試験場）		9	4	5	5	25	9
小諸市山浦（同 佐久支場）		3	7	13	11	18	42
諏訪郡原村（防除適期決定ほ）		6	12	8	21	18	40
東筑摩郡朝日村（地区発生予察ほ）		5	3	2	3	0	0
上田市菅平高原（地区発生予察ほ）①		0	0	0	0	0	0
〃 〃 ②		9	4	11	23	30	13
長野市上ヶ屋（地区発生予察ほ）		14	36	27	15	32	50

8) オオタバコガ

巡回調査では、被害はみられなかった。

フェロモントラップへの誘殺数は、小諸市山浦（野菜花き試験場 佐久支場）で第4半旬に急増した。また下伊那郡豊丘村神稲（防除適期決定ほ）で第6半旬以降急増したが、これは第1世代成虫と推定された。

第2表 フェロモントラップによるオオタバコガ成虫誘殺消長

調査場所	月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
塩尻市宗賀（野菜花き試験場）		5	5	3	1	4	2
小諸市山浦（同 佐久支場）		9	2	3	21	4	2
須坂市（農業試験場）		0	0	0	1	1	0
豊丘村神稲（防除適期決定ほ）		12	13	4	3	1	10

9) ヨトウガ類

第3表 フェロモントラップによるヨトウガ誘殺消長							
月・半旬		6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
調査場所							
塩尻市（野菜花き試験場）		11	10	8	3	6	7
須坂市（農業試験場）		0	3	1	0	0	0

第4表 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺消長							
月・半旬		6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
調査場所							
塩尻市（野菜花き試験場）		0	0	0	0	0	0
須坂市（農業試験場）		0	3	2	1	1	1
上田市（地区発生予察ほ）		0	0	0	0	0	0

第5表 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウ誘殺消長							
月・半旬		6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
調査場所							
塩尻市（野菜花き試験場）		0	0	0	1	0	3
須坂市（農業試験場）		0	0	0	0	0	0

10) ハモグリバエ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、ねぎ（南信及び中信地域）で発生が目立つところがあった。

11) アブラムシ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、きゅうり、トマト、キャベツ（東信及び南信地域）、ブロッコリー（南信地域）、アスパラガス（南信及び北信地域）、すいか（南信及び中信地域）、ねぎ（南信及び中信地域）で寄生がみられ、特に東信地域のジュース用トマトでは多発生、南信地域の促成栽培きゅうり、北信地域の露地栽培きゅうり、南信地域の促成栽培トマト、南信及び中信地域のジュース用トマトでは中発生であった。

黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫の飛来消長調査では、塩尻市宗賀（県予察ほ）及び塩尻市洗馬、富士見町、長野市（いずれも地区発生予察ほ）では第2半旬以降急増した。

第6表 黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫の飛来消長

月・半旬		6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
調査場所							
塩尻市宗賀（野菜花き試験場）		5	1	5	10	17	37
塩尻市洗馬（地区発生予察ほ）		17	44	61	77	171	129
富士見町（地区発生予察ほ）		15	31	16	56	50	188
上田市（地区発生予察ほ）		4	11	13	2	12	7
長野市（地区発生予察ほ）		6	10	29	23	26	36

12) アザミウマ類（ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマなど）

巡回調査ほでは、促成栽培キュウリ（中信地域）、露地きゅうり（北信地域）、キャベツ（南信及び中信地域）、たまねぎ（中信地域）、雨よけ栽培アスパラガス（南信地域）、ねぎ（南信及び中信地域）で寄生や食害痕がみられた。

促成栽培トマト（中信地域）、ジュース用トマト（南信地域）で白ぶくれ果がみられた。

青色粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺消長調査では、塩尻市洗馬（地区発生予察ほ）第5半旬に急増した。

第7表 青色粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺消長							
月・半旬		6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
調査場所							
塩尻市洗馬（地区発生予察ほ）		2	9	8	8	51	43
富士見町（地区発生予察ほ）		2	2	2	6	5	15

13) ハダニ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、促成栽培キュウリ（南信及び中信地域）、すいか（南信地域）でみられた。